

仕事と休暇を組み合わせた 新たな旅

コロナ禍によりテレワークが浸透し、働く場所がオフィスだけでなく、自宅や外出先など多様な場所へと広がってきています。

これにより、海外ではコロナ禍以前から行われつつあった「ワーケーション」や「ブレジャー」といった、仕事と休暇を組み合わせた旅行スタイルが日本でも広がりつつあります。

当財団では、仕事に関連する旅行に関する研究を進めており、今回のギャラリー展示では、働き方の多様化に伴う旅のスタイル変化についてご紹介します。



ワーケーションとは？

Workation

ワーク (Work) とバケーション (Vacation) を組み合わせた造語で、
テレワーク等を活用し、**休暇中の滞在先などで余暇を楽しみつつ仕事を行うこと**

ブレジャーとは？

Bleisure

ビジネス (Business) とレジャー (Leisure) を組み合わせた造語で、
余暇目的の旅行を、出張等の**業務目的の旅行の前後に付け足して余暇を楽しむこと**

仕事と休暇を組み合わせた「新たな旅」のタイプ

新たな旅のタイプには色々な分類の仕方がありますが、ここでは実施する人の数 (個人なのか団体なのか) に着目して分類しています。ワーケーションは、海外の場合には個人型をイメージすることが多いですが、日本では、団体 (企業) 型である「サテライトオフィスタイプ」や「社員研修タイプ」への注目も高くなっています。

また、日常的に場所を選ばずに仕事をする「日常埋め込みタイプ」も、新たな旅の一つのタイプと考えられます。

Workation ワケーション

Bleisure ブレジャー

個人型

休暇活用タイプ
(休暇の合間に業務)

休暇付け足しタイプ
(出張前後に休暇を付け足す)

日常埋め込みタイプ
(ノマド的働き方)

団体型
(企業型)

サテライトオフィスタイプ
(遠隔地のオフィス業務)

社員研修タイプ
(オフサイトミーティングや地域課題解決を実施)

出典: 各種資料をもとに作成

日本における、仕事と休暇を組み合わせた「新たな旅」の展開

2010年代

- デジタル技術の発展やフリーランスの増加を背景に、
仕事と休暇が重なり合うライフスタイルへの注目が徐々に高まる

2017年

- JAL(日本航空)がワーケーション制度を導入(企業の実践の先駆け)
- 和歌山県(白浜町)がワーケーションの取組みを推進(地域の実践の先駆け)

2018年～
2019年

- 長野県が「リゾートテレワーク」として事業を開始
- 和歌山県と長野県の呼びかけで
「ワーケーション自治体協議会 (Workation Alliance Japan)」設立
(2021年10月現在、会員自治体は1道22県178市町村)

2020年～

- 7月29日、菅官房長官(当時)が、
「ワーケーションなどは、新たな旅行や働き方のスタイルとして
政府としても普及に取り組んでいきたい」と発言
- 観光庁が「『新たな旅のスタイル』に関する検討委員会」を立ち上げ
- 日本各地でワーケーションへの取組みが展開

日本におけるワーケーションの主な取組み(地域・企業)

Workation

日本航空株式会社

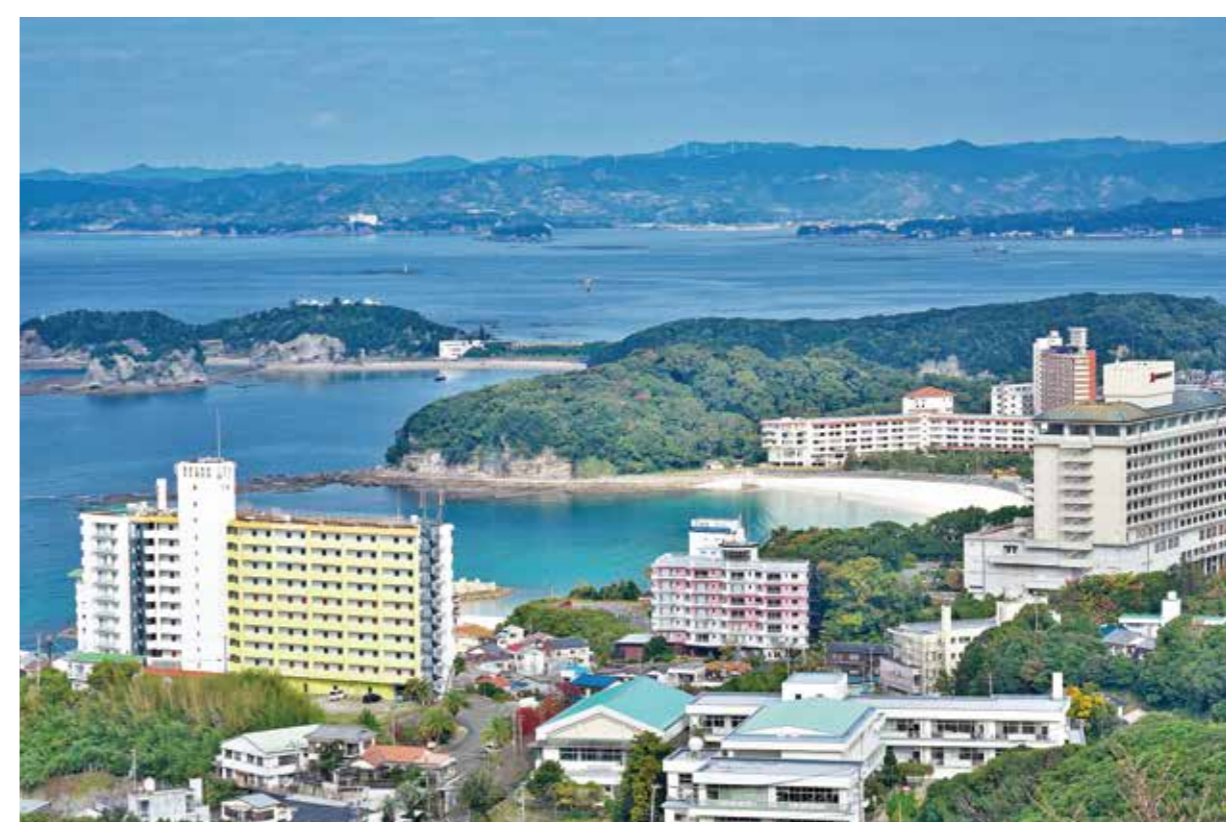
日本航空株式会社では2015年から働き方改革に取り組んでおり、2017年より休暇利用中に仕事を行うテレワークを可とする「休暇型」のワーケーションを導入。現在では、滞在先で集中討議を行う合宿型のワーケーションを徳島県神山町や宮城県鳴子温泉、福岡県福岡市、富山県朝日町などでも実施。



Workation

和歌山県(白浜町)

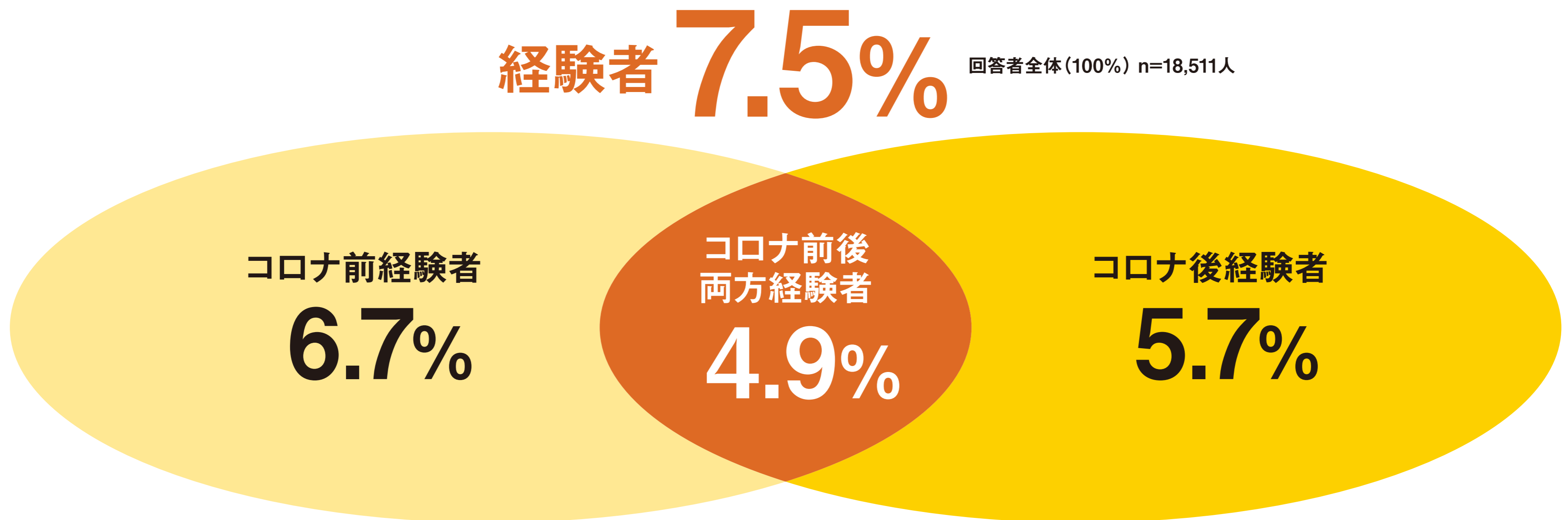
地域におけるワーケーション推進の先駆け。もともとIT企業の誘致を積極的に実施していたが、誘致したIT企業ではコロナ禍以前からリモートワークを積極的に導入していたことから、町が積極的に「ワーケーションの地」としてPR。現在、企業のサテライトオフィスが多く立地。



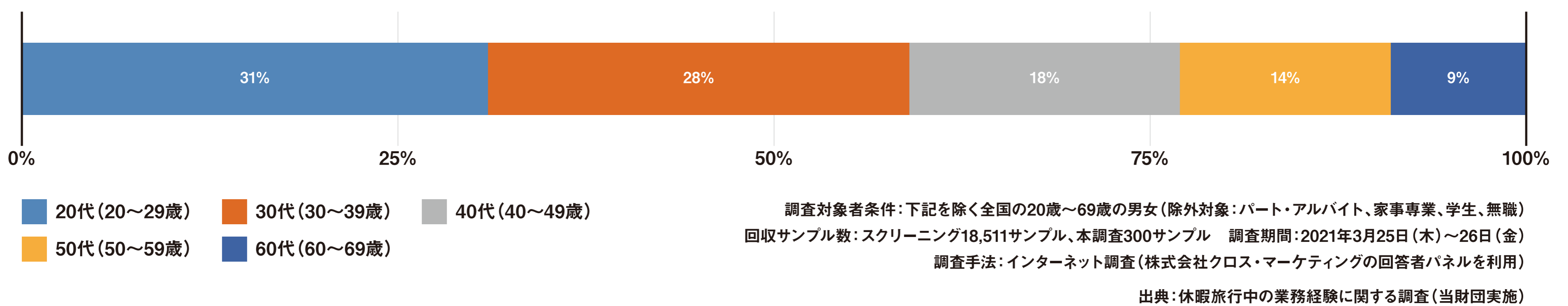
ワーケーション(主に休暇活用タイプ)の経験割合

当財団が2021年3月に実施したアンケート調査では、「休暇の旅行中に業務(いわゆるワーケーション)を行ったことがある」と答えた人は**7.5%**となりました。コロナ禍により旅行がしづらい環境となった2020年4月以降においても、ワーケーションを行っている人が一定数いることがうかがえます。また、経験者の年代構成をみると、**20代、30代で58.9%**となっており、経験者は若い年代が中心となっています。

※2019年1月以降の実施を対象 ※業務は、会議出席や資料作成等の本格的な業務のみを対象



経験者の年代構成

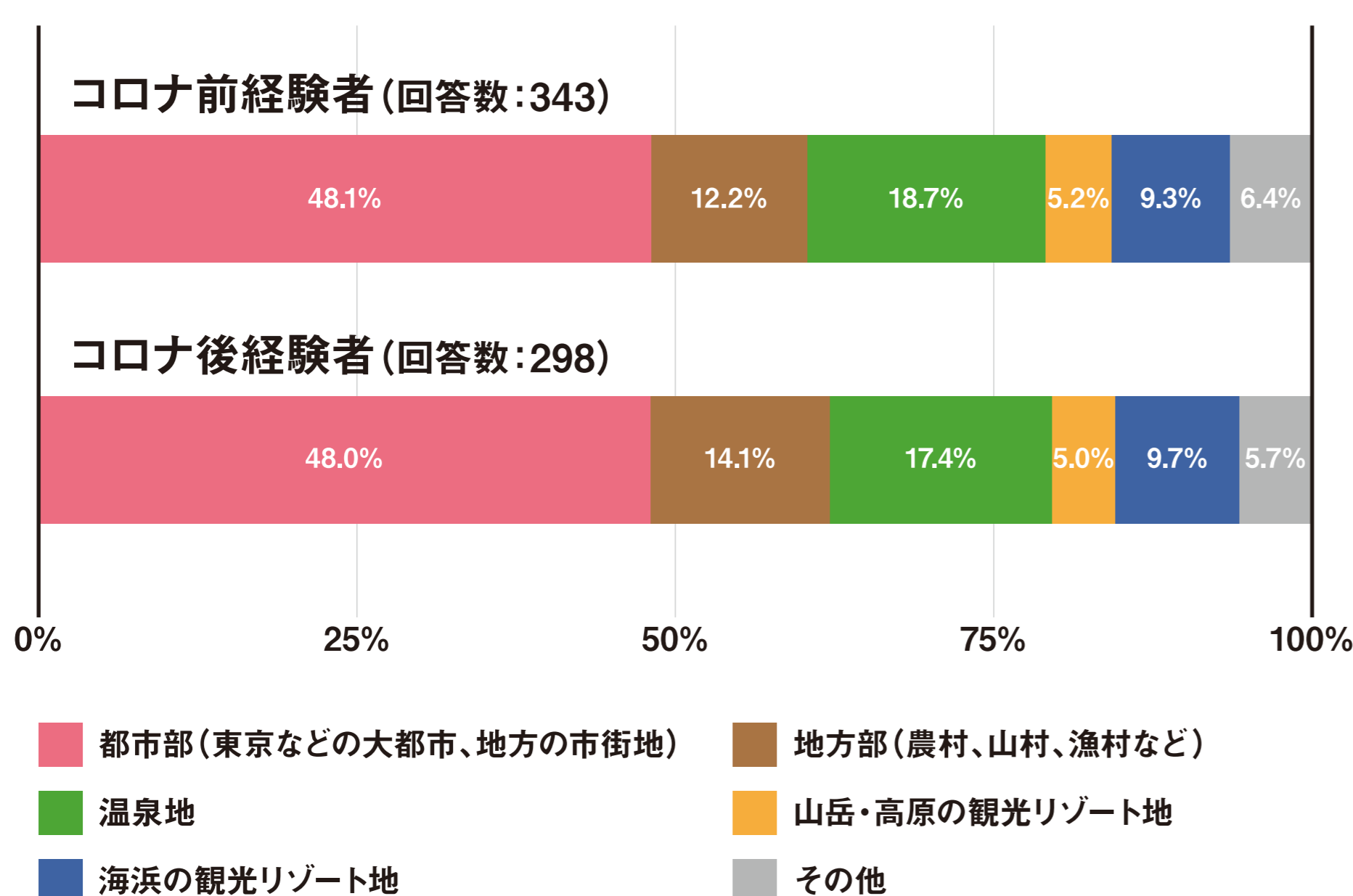


ワーケーション経験者の動向・意向

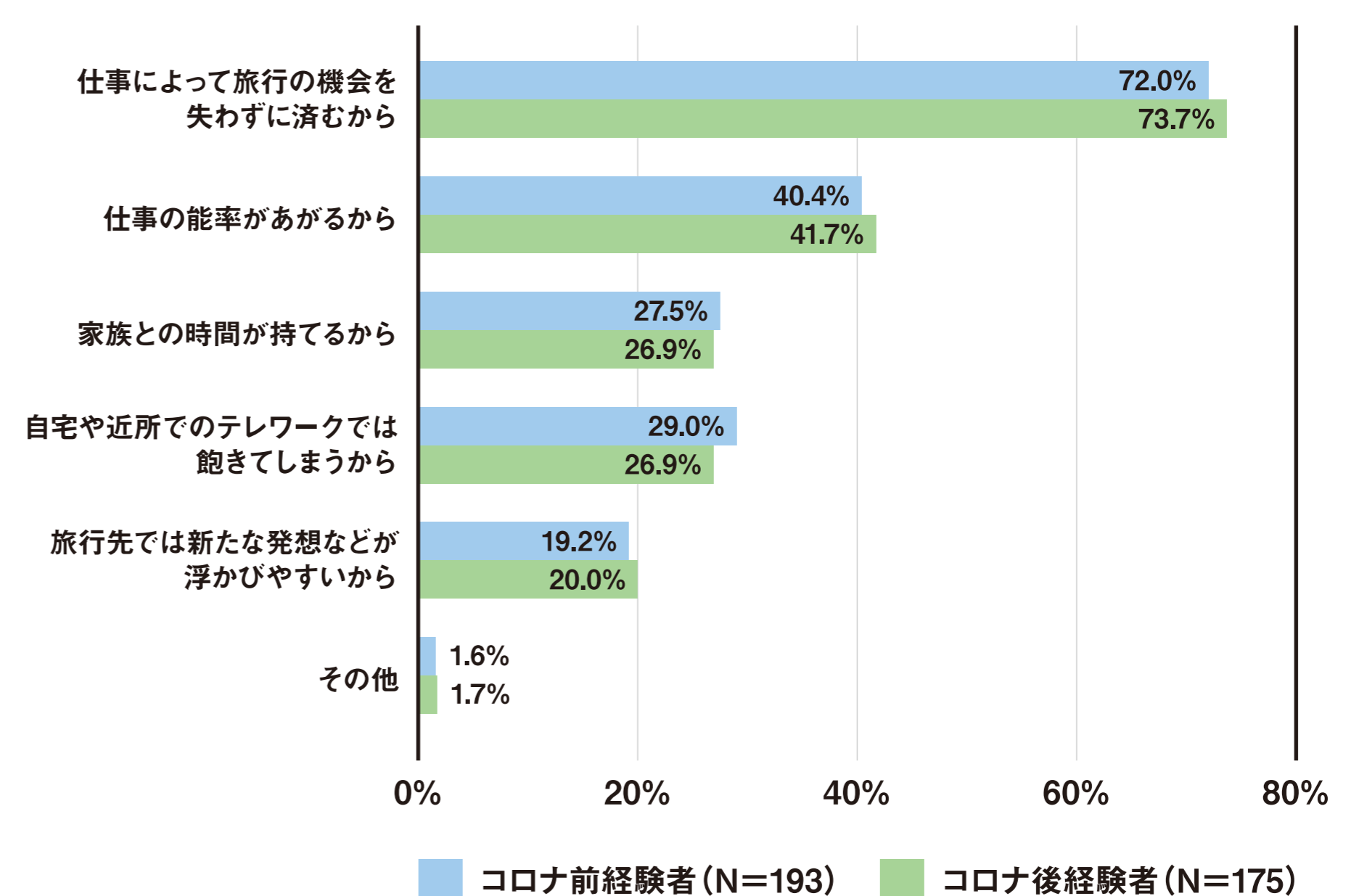
休暇の旅行中に業務を行った経験がある人(300人)の、その際の旅行先についてはコロナ前・後とも約48%が「都市部(東京などの大都市、地方の市街地)」でした。一方で、「地方部」「温泉地」「山岳・高原のリゾート地」「海浜の観光リゾート地」もコロナ前・後で合計約46%となっており、こうした地域が「ワーケーションのできる滞在先」となっていることがうかがえます。

また、今後もワーケーションを行いたい理由としては、「仕事によって旅行の機会を失わずに済むから」が最も多く、次いで「仕事の能率が上がるから」となっています。

ワーケーションを実施した際の旅行先



今後ワーケーションを行いたい理由



韓国・台湾のワーケーションの動き

韓国

韓国ではコロナ禍により対面接触を気にする社会の雰囲気形成されたこともあり、在宅勤務者が大きく増加しました。また、若い世代においては職場で深い関係性を好まなかったり、仕事と家庭の両立を重要視する文化などが強まったりしていることで、ポストコロナ時代にも在宅勤務が徐々に拡大する可能性も指摘されています。また、韓国内のいくつかの地域でワーケーション推進の取組みが見られます。

ワーケーション推進の取組み例

江原道 実施：江原道観光財団

- インターネット通販サイト（旅行商品の販売もあり）のインターパークと共同で、2021年3月末に企画商品「江原ワーケーション」を販売。2カ月余りで8,238泊を販売。
- インターパークの販売分析では、道内の平日宿泊は前年同期比25%以上増加。平日3泊以上の予約は合計1,326泊を記録し、前年より13%増加。
- 人気旅行先は、江陵 21.9%、束草 が21.5%。高城郡（韓国の最北東）の場合、昨年と同じ期間よりも平日宿泊が97%増加。

出典：<https://n.news.naver.com/article/025/0003105303>

慶尚北道 実施：慶尚北道庁

- 企業を農村に誘致するために、全国で初めて「農村ヒーリングワーク事業」を推進。企業と結んだ協定の中で、地域側ではワークスペースを提供することや農村体験観光の活性化のための継続的は訪問などが盛り込まれている。
- また、慶北文化観光公社は、中央線(KTX)開通でアクセスが改善された安東・醴泉・奉化で旅行商品を試験運用。旅行商品は、「リラックス」「体験」「自転車旅行」などの3つのテーマで構成。旅行者は各テーマ別に3泊4日、6泊7日を選択することができ、少なくとも2人から購入可能。

出典：<http://www.blognews.kr/news/articleView.html?idxno=32457>



台湾

台湾では新型コロナ発生当初から大きな感染者数の増加がみられない状態が続きましたが、2021年5月頃より大きく感染者数が増加したことで感染警戒レベルが引き上げられ、勤務形態の一部をテレワークに切り替えた企業が57%となるなど、在宅勤務へのシフトの動きが見られました。

しかし、2カ月後の7月には感染者数も大きく減少したことから感染警戒レベルは引き下げられ、それに伴い通常の勤務形態に戻ったところも多くみられるなど、日本に比べるとテレワークが定着度合いは低い状況にあるようです。そのような状況ではあるものの、台湾においてもワーケーション推進の取組みは見られ始めています。

ワーケーション推進の取組み例

天成飯店集團(コスモスホテルグループ) 台北・花蓮

- 花蓮・台北にあるグループの4つのホテルへの旅行を2021年9月30日までの期間限定で2名で9,999元(約4万円)のオンライン割引クーポンを販売。クーポンを購入すると、4つのホテルが1泊ずつ利用可能。
- 台北の3つのホテルは1泊朝食(お弁当付き)。
- 花蓮のホテルは1泊夕食・朝食つき。 ※日曜日～木曜日の利用に限定

出典：https://www.tw-cosmos.com/4in1_package/

